

Nさんへ

ラジオネーム：P子

勤め先の上司だったNさんが亡くなられて20年が過ぎました。今年の春、職場結婚した私の夫が、Nさんが亡くなられた時と同じポストに異動し、夫婦ともにNさんのことを思いださずにいられませんでした。

Nさんは、私が新人の頃の上司で、挨拶から仕事のやり方、進め方、お酒の飲み方、角の立たない断り方まで、沢山のことを教わりました。

私がNさんの高校の後輩ということもあって、とても優しくしてくださいったのもとても良い思い出です。

円滑な人間関係を築く方法は、Nさんがお手本でした。柔らかい人柄で、いつも笑顔をやさず、「仕事は楽しく、正しくね」とよくおっしゃっていました。この言葉は、のちに私の座右の銘となりました。

朝早く、家業の手伝いをしてから出勤し、バリバリ働いて、人づきあいも良かったNさん。

ある時、長期間残業が続き、あれもこれもと細かな仕事が続いたとき、Nさんから笑顔が消えて、周りのみんながとても心配したことを良く覚えています。

こんな時、世間では、急にそっぽを向く人もいる中、Nさんの周りの人たちはNさんを心配して、優しく声をかけたり、「仕事を手分けできないか打ち合わせをしよう」と動いてくれた方もいらっしやいました。これが、普段からのNさんに対する皆さんの気持ちなんだと、こういうふうに思われる人になりたいと思ったものです。

Nさんはその後都会に単身赴任し、そこでまた頑張ってしまったのか、これまでの頑張りで身体を壊してしまったのか、出勤途中で倒れ、そのまま帰らぬ人となってしまいました。あの時は、あんなに素晴らしい人が先に逝ってしまうとは、悲しくて悔しくて、たまらない気持ちでした。

私たちが結婚した時、「P子、おめでとう」と言ってくださったNさんの笑顔が今でも胸に焼き付いています。

私の夫も今まさに単身赴任中です。これもご縁なのでしよう。Nさんの生きざまを教訓に、夫婦間で健康管理と情報共有、そして日々の声掛けを欠かさないようになっています。

Nさん、そちららびもめっす、っす、っす、Nさんらっすおっすっすっすね。